

高松市立林小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

林を愛し、夢に向かって心豊かにたくましく生きる子どもの育成

【本校の現状と課題】

① 「新体力テストの数値分析の結果」より

○ 全学年男女ともに、新体力テストでは、県・市平均を下回っている種目が多い。

特に、20mシャトルラン、握力は全学年で県平均を下回っている。

○ 総合評価（A+B）の数値が全学年で県平均を下回っている。（D+E）の数値もほぼ同等。

② 体育の授業での様子より

○ 比較的素直で、言われたことをやろうとする児童が多いが、自ら考えて、活動する児童が少ない。また、持続性に欠ける。

【取組み】

体力づくりの時間の設定

体育の授業の始めに、体力づくりの時間を設定することで、全校生が体力を高める運動に触れる機会を作る。

- ・ どのクラスも、体育の準備体操の後に鬼遊びなど、持久力を高める運動を行う。
- ・ 毎週「鬼ごっこの日」として設定し、休み時間に全校生で走る運動に挑戦する機会を継続していく。クラス毎に外に出るように呼びかけたり、教員も一緒に行ったりし、体を動かす楽しさを味わえるようにする。



運動への意欲を高める活動

体育委員会が中心となり、昼休みに体育的な活動を行う。

- ・ 年間通して、なわとびチャンピオン大会を開き、種目を持久系に限定することで参加した児童の体力向上をねらう。チャンピオンになった児童や意欲的に取り組んだ児童を放送で紹介したり、賞状を渡したりすることで、意欲を高める。他の運動での提案も体育委員会で検討している。
- ・ コツ伝授の動画を撮影して運動のコツを全校生に共有したり、教授する場を設定したりすることで、意欲的に運動に取り組もうとする態度を養う。



【目標】

- 体育の授業の始めに体力づくりを行うことで、体力向上をめざし、男女ともに握力・20mシャトルランの記録を県平均以上にする。
- 総合評価の（A+B）の割合を前年度より増やし、（D+E）の割合を前年度より減らす。
- 「やりたいと思える体育」を目指して、運動時間を確保できるよう活動を工夫したり、友だちと考える取り組む場面を設定したりして、前向きに運動に取り組める児童を増やしたい。